

事務事業名		80600	施設維持管理費	予算科目	会計	款	項	目	所管課	下水道課	担当班	工務班
施策体系	基本施策	21	良好な生活環境の形成	根拠法令	下水道法	2	1	1	事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 主な事業 <input checked="" type="checkbox"/> 国土強靱化地域計画 <input type="checkbox"/> 新市建設計画 <input type="checkbox"/> 定住自立圏構想 <input type="checkbox"/> 主要事業		
	施策の展開	39	住み良い住環境の確保	戦略事業	186	公共下水道の整備						
	施策の展開			戦略事業								

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 12 年度～ <input type="checkbox"/> 開始年度不詳 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	●生活排水(汚水)を一括処理する下水道施設(浄化センター)を24時間連続で運転しており、機械(送風機、攪拌機など)の維持管理を行う。 ●主に①旭駅周辺202haの約1,800世帯(事業所等を含む)から出る汚水を浄化センターで一括処理する。②処理に伴い発生する汚泥はセメントの原料としてリサイクルするため外部委託し処理する。汚水は機械(送風機、攪拌機など)により浄化・消毒したうえで、新川へ放流する。 ●平成25年度は、汚水処理施設の長寿命化計画の策定に向けた基礎調査を実施。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
・生活レベルの向上や住宅開発等に伴い、生活雑排水が増加し、河川の水質悪化の改善が課題となり、水質改善を図るため公共下水道を整備することとした。平成12年3月31日に公共下水道を供用開始し、浄化センターでは汚水の浄化処理を行っている。	・公共下水道の利用者の増加に伴い、処理水量も増加している。 ・処理水量の増加や施設の老朽化によって、維持管理費及び修繕費は増加している。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
・公共下水道事業のコストは高いという意見がある。 ・浄化センター維持管理費のコスト縮減が求められている。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(30年度の決算) 単位:千円	
1.委託料(運転・汚泥処理)	87,626 運転業務委託料、汚泥等運搬処理業務委託料
2.委託料(その他)	4,617 自家用電気工作物保守、清掃等委託料ほか
3.修繕料	6,011 ポンプ等修繕費
4.需用費(修繕料を除く)	19,029 消耗品、燃料費、光熱水費
5.その他	2,750 役務費、工事請負費ほか
② 特定財源の内訳(30年度の決算) 単位:千円	
1.国庫支出金	0
2.都道府県支出金	0
3.地方債	0
4.その他	99,077 下水道使用料

事業費	費目内訳	単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(予算)
	1.委託料(運転・汚泥処理)	千円	87,721	87,868	87,294	87,626	91,374
財源	事業費計(A)	千円	122,529	137,091	122,596	120,033	133,527
	1.国庫支出金	千円					
	2.都道府県支出金	千円					
	3.地方債	千円					
	4.その他	千円	92,263	95,041	101,667	99,077	100,185
	5.一般財源	千円	30,266	42,050	20,929	20,956	33,342

前年度増減理由	委託料及び修繕料の減
---------	------------

従事職員数 常時 1.5 人 最大 1.5 人 × 225 日 = 延べ 338 人

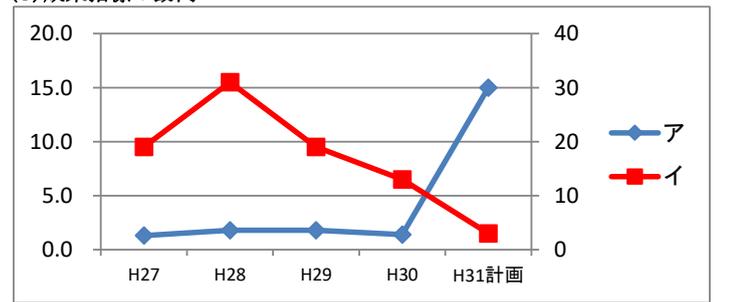
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
	30年度実績(30年度に行った主な活動) ア 浄化センター設備の修繕(管理本館、汚泥処理棟等) イ 汚水処理量 658,550m ³ /年、汚泥搬出量 533t/年	ア 設備等の修繕回数 イ 処理水量 m ³ /年	回	9	13	10	12	3
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
	対象意図 ・公共下水道供用区域(A=202ha)内の住民 ・汚水をすみやがに排除することで、良好な生活環境を得ることができる。 対象意図 ・浄化センター施設 ・適切に維持管理される。	ア 水質検査結果(浄化センターから新川へ放流する水のBOD) イ 浄化センター施設の故障件数	mg/l	1.3	1.8	1.8	1.4	15.0
			件	19	31	19	13	3

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		② コスト削減優先度評価結果	
施策貢献度	成果向上余地	評価結果	コスト比率
	かなりある		下位 1/3
	ある程度ある		中位 1/3
大きい	①	上位 1/3	⑥
普通			
小さい			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	<input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 概ね順調 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 実施困難				
	② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	成果指標のタイプ	数値減=成果向上	数値減=成果向上
	【コメント】 (低下の場合、その理由)				向上	向上
③ 今年度取組事項(31年度に取り組みたい主な事項について記載)	時期	内容		今後の方向性	比較	
	H31	最終沈殿池汚泥引抜弁交換 旭中央汚水ポンプ場汚水ポンプ交換		<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他()	26年度 27年度 28年度 29年度 30年度 31計画	
					ア 0.3 0.5 0.0 Δ0.4 13.6 イ 5 12 Δ12 Δ6 Δ10	

下水道施設の改築・更新を図りながら、適正な運転管理を継続し、安定した下水処理を行う。